

## 下関市公共交通整備検討委員会（第3回）

### 議事録

日時：平成29年3月6日（月）13時30分～15時20分

場所：下関市役所本庁舎新館 5階大会議室

#### 1 開会

- ・配布資料の確認
- ・欠席者及び代理の紹介

#### 2 会長挨拶

- ・会長挨拶
- ・出席人数と委員会成立の報告
- ・議事進行の説明

#### 3 議事

##### （1）総合交通戦略策定までの流れ

- ・事務局が総合交通戦略策定までの流れについて説明

会長：今回は、これまでの検討委員会から出てきた課題、地元説明会から出てきた課題、本市の上位・関連計画から出てきている課題、この3つをもとに本市の抱える交通の課題を整理するということが1つの目的である。委員の皆様方にはこの3つの話から出てくる課題という部分に漏れがないか、もっとこういった部分もあるのではないかとといったような確認を行ってほしいと考えている。交通の課題整理ができれば、課題から見えてくる交通の方向性について意見をもらいたいと思う。

##### （2）本委員会における意見を踏まえた交通課題の抽出

- ・事務局が本委員会における意見を踏まえた交通課題の抽出（P4～P20）について説明

会長：ここまでを簡単にまとめると、15ページはこれまでの委員会の中で出された問題点を整理して、図式化したものとなっている。卵と鶏の関係で問題がどこから発生しているのかが難しいところではあるが、公共交通が様々な事情で利用しにくい状況になってきているということである。そこから満足度が低いという結果に繋がり、結

果として公共交通の利用者が減っている。その結果、自動車へ依存する交通体系ができ上がってしまい、そこからさまざまな問題が発生する。また、公共交通の利用者が減っていくことで、公共交通の事業者における収支状況が悪化していき、公共交通の維持が困難になっている。その結果、さらに公共交通が不便になっていく。そうすると、市民にとっても生活における公共交通を利用する機会が失われていき、最終的には地域の衰退につながり、ますます公共交通の衰退につながっていくという流れになると考えられる。

この図式化から課題というものを抜き出し、整理したものが20ページとなり、8つの課題ということで整理している。

今後、この課題から方向性、あるいは最終的には戦略を考えていくということになるため、この部分を確認してもらいたい。

### (3) 地元説明会における意見を踏まえた交通課題の整理

#### ・事務局が地元説明会における意見を踏まえた交通課題の整理(P22~P33)について説明

会長 : この章を簡単にまとめると、第2章において、本委員会が出された問題点に対する課題が8つ挙げられていたが、そこに加え、地元の説明会で出された意見ということで、環境負荷の低減という課題を追加している。これは公共交通への転換を促していくという意味や、自転車の利用促進という意味もある重要な内容だと考えている。

A 委員 : 25ページの菊川地区の説明会で一番下のところに記載している「自動車の運転ができないことで不便なので、新たな自動車に代わる手段を確保してください」という意見に対する課題として、公共交通の利用促進としているが、新たな交通手段を作ってくださいというのであれば少し違うような気がする。生活交通の確保とは違うのか。字面だけでは想像できない。

会長 : 確かにどちらにでも取れるような内容かもしれない。その辺、事務局のほうで地元の説明会の際、こういった内容だったのかももう少し詳しく説明をしてほしい。

事務局 : 事務局で整理し、後ほど回答させてもらう。

会長 : 回答は後回しということにする。

B 委員 : 前回の資料の中に公共交通に関する支出の状況等というのがある。これを見ると、生活バスについて委託料として市から5000万近い金が出ている。うち、運賃収入は430万ぐらいであり、ほとんど補助金でバスを動かしている。少しでも補助金を減らされると成

り立たない。そんな状況で、平成29年度の見直しによる本市の運行費補助金は減額の見込みである。これからすると、こういう補助金関係はこれから国も県も市も削られていくと思うが、そういう中で、住民意見を聞くと、「昔は運賃が安かった、バスの便数が多かった、中山間の中までバスが入ってきてくれたからぜひそういうふうにして下さい」と言うと思う。現状としてお金がないのに昔のようにというのはとても無理だと思うので、どういう方向に向かうのかということを考えてほしい。

同時に、下関は人口減少、高齢化がどんどん進んでおり、以前の新聞では、宇部と山陽小野田等が手を握って、連携都市を形成して問題に取り組んでいくと書いてあった。つまり、下関だけの問題ではなく、山陽小野田、宇部と3つで組んで中核連携都市ということ考えていく必要があると思う。

会長 : 連携中枢都市は、下関は下関市だけでやるという方針でやられているので、単独でやるという方向で進められていると伺っている。

1点目に生活バスなどに対する補助金の減少に関して、どうしても市民の側からすると「もっとどうにかしてくれよ」ということになると思うが、それがなかなか許されない状況になってきている。ここをいかに市民の皆さんに認識してもらおうかということももちろん大事な課題になってくるかと思うが、一方で、効率化がどこまでできるかも大事である。少ない予算でできるだけニーズに合ったサービスを提供していくことをこれから進めていかなければならない。

事務局 : 今後の交通機関をどうしていくかという点に関して、会長からも説明があったが、人口減少、高齢化が進行していく中でサービスを維持していくことは難しいと考えている。その中で、公共交通体系を効率化させるとともに利用促進を図る。今、利用されている便、されていない便について、生活バスや路線バスに関しても把握し、公共交通サービスの低減を食い止めながら、利便性を確保していくといった交通体系の構築を目指していきたい。

会長 : 効率化というのは言うのは簡単で、やるのはなかなか難しいが、今後の委員会の中でも検討していきたいと思っている。

C 委員 : 委員会の資料の中の9ページにおいて、サンデン交通、ブルーライン交通、ノンステップバス、生活バス等に対する市からの補助金が3億3000万、市予算の全体の0.3%ということであるが、今後の交通事業や少子高齢化等を考えると、非常に利便性が悪い。生活困窮者、医療難民にとって、買い物等も非常に不便になると思うた

め、この3億3000万というのは聖域として予算をつけてもらいたい。

会長 : 9ページではなく、10ページ。聖域というのは恐らく市は回答できないと思うが、限られた予算ではあるが、なるべくなら増加させてほしいというのは当然市民の側の意見としてはあり得るお話だと思う。そのあたりも今後の委員会における戦略の柱がしっかりしてくれば、当然そこに必要な予算がつけられるのではないかと思うので、こういった戦略を立てるかというところをこれから反映させていかなければいけない。行政として聖域というのは使えないと思うので、なるべく予算を確保してもらおうということかと思う。

D 委員 : 課題については大体の住民も問題意識を持っていると思う。市が進めているまちづくり協議会も交通難民というようなことを問題として挙げ、それをどうするかという形を、行政の立場ではなく検討している。具体的に市はどのような形で住民に働きかけ、どのように実行していくかの計画立てを行政にお願いしたい。民間団体というのはボランティアの延長線上の感覚でやっているため、市がもう少しこの交通問題の検討をしっかりとやってもらいたい。

E 委員 : 15ページの問題整理の中で、どこから問題が発生するかという話が先程あったが、少子高齢化というのは非常に大きな課題で、だからどこから始まっているかということ、鉄道なりバスの利用の利用者が減ってきたから自動車の利用が増えている、そういうふうに見ればいくらでもそうできるのですが、そもそも少子高齢化なので、例えばバスやJRの本数を増やしても、そもそも利用が少ないというところをしっかりと見ないと、バスと鉄道の接続を改善したにしても、本当にそれが本課題の解決になるかというのはよくわからない。また、33ページに示す各地域の交通課題に関して、地元の方からの意見ではあるが、例えば、豊北地区の問題に人口減少の問題に対応しなくてよいかという話では全くないと思う。もちろん今回意見を伺った中だけで言えばということだと思うが、この資料だけで話を進めると、豊北町はこれから人口が増加するという見方になる気がする。こういう意見が出たということで進めるのは良いが、これを踏まえた上で次のステップというのは危険ではないかと思う。鉄道に関することはできることは一生懸命やっとうと思うが、公共交通の効率化という単語はなかなか難しい表現で、何を効率化と言うのか。コストを下げつつ鉄道を維持するという視点や、もう少し地域の皆さんが利用しやすいように、別に列車の本数を増やさ

なくても本当に使いたいときにその列車が動くことが一番といった視点もあり、効率化というのは視点によって意味が異なる。そのため、その辺をもう一步踏み込んで議論していくか、もう少し原点に戻って、少子高齢化等の問題に対して、まちづくり団体などと連携し、対策を打ったほうがより充実するのではないか。

会長 : 33ページは、これはあくまで本委員会の話を受けて地元説明会の意見が漏れている部分を追加したという形だと思う。別に豊北で人口減少が問題になっていないということではないと思う。

それから、効率化というのは何をするのかというのはなかなか難しい。基本的にはやる手段を増やせない中でどこまでサービスやニーズに添えていくかということになるかと思う。その点は確かに若干論点の整理が必要だと思う。

それから15ページの図式のところだが、確かに人口減少というのは少なくとも文字としてはどこかに必要だと思う。地域の衰退というのが右上あたりにあるが、ここがスタートと言えばスタートかもしれない。その中に人口減少が入っていると考えられる。ここに入れて全体の整合性が取れるかどうかまだわからないが、少し事務局のほうで人口減少、あるいは少子高齢化というワードが盛り込めないかどうか、再度検討してほしい。

事務局 : 15ページの中には公共交通利用者の減少という形でのキーワードが入っているが、人口減少とは入っていないので、15ページの中にキーワードとして入るか入らないか検討し、次回お答えさせてもらう。

会長 : 単純に入れたらいいという話でもないので、うまい形で入れられるかどうか検討してほしい。

事務局 : 先ほどのA委員の意見に対する回答だが、資料(菊川)の31番の意見を少し集約した形で資料の25ページに記述している。全文としては、「高齢者が免許を返納したときに車に乗れない移動不安が増大するので、もっときめ細かに運行回数を増やすなど配慮が必要になると思う」ということで、運行回数という言葉があったため、公共交通の利用促進という課題に整理した。意見のあった生活交通の課題等、「公共交通の利用促進」以外に直結していないわけではないが、代表的なものとして公共交通の利用促進という言葉で括らせてもらった。

#### (4) 上位・関連計画に基づく交通課題の整理

・事務局が上位関連計画に基づく交通課題の整理(P35~P55)について説

明

F 委員 : 35 ページの一覧の中で、サイクルタウン下関構想が平成 16 年に策定され、合併前の策定であるため、旧下関市がエリアになっていたかと思うが、その辺が上位関連計画となるのか。また、下関市交通バリアフリー基本構想は、平成 17 年に策定されており、恐らく道路課が下関駅周辺と新下関駅周辺のバリアフリーの整備をある程度仕上げたような形になっているので、この構想が今回策定される中でまた見直しが逆に出てくる可能性もあるため、どうなのか。

そもそも、公共交通の定義とは何なのか。乗り物が公共交通としたら、本委員会や地元説明会ではそれ以外の自転車、徒歩、渡船に関する意見が出ており、資料にも記載してあるが課題には触れられていないので、どこまでが公共交通かを確認したい。

事務局 : サイクルタウン下関構想は、旧市内、旧下関市のエリアで平成 16 年に策定された計画であり、基本的には上位計画というよりは関連計画ということで、公共交通プラスアルファになると思う。地元からの意見や委員の皆様からの意見にも公共交通と合わせた自転車もしくは歩行者等の移動、一層の利用促進ということで項目が挙がっているところもあり、下関市総合交通戦略の中では検討していくべき課題の 1 つと考えている。

公共交通の定義は、第 1 回資料の 21 ページの中で、鉄道、バス、航路（渡船）、タクシー、あとはコミュニティ系のものということになるかと本市においては認識している。

また、今、定めようとしている計画は、公共交通を軸とした交通に関する計画であるため、徒歩や自転車という要素が加わってくると考えている。

会長 : 第 4 章では、上位関連計画との整合性ということで、先ほど 9 つの課題というのがあったが、ここで「まちの賑わい向上」というもう 1 つの課題をつけ加えている。これをもとに方針が定められていくことになるため、まずこの時点で 10 個の課題でよいか確認してもらいたいと思う。もう少しこういう視点を入れたらいいのではないかと、表現としてどうか、そういった点が何かあれば意見をもらいたい。

さきほども言ったが、それぞれの単語の定義がなかったりするため、様々な捉え方ができる部分があると思うが、とりあえずこの 10 個ということで課題整理という形にしたいと思う。

## (5) 交通計画の基本方針

・事務局が交通計画の基本方針(P57~P59)について説明

F 委員 : 資料の2ページにて、今年度に将来を見据えた方向整理をし、最終的には29年度に総合交通戦略の策定ということで、その中に実施計画の検討等も記載されると思うが、実施計画の検討に関して、ハード面でどの程度まで踏み込んだ計画内容になるのかというのをある程度教えてほしい。

事務局 : 今後の予定であるが、交通計画は29年度策定予定である。細かい流れとして、第4回は総合交通戦略のマスタープラン案を提示し、それに対する意見をもらい、第5回にマスタープランの承認をもらう予定である。併せて第5回に基本的な方針に基づき、課題に対する必要施策の検討方針を議論してもらう予定である。そして第6回的时候に必要施策、実施計画の案の提示という流れになるため、具体的な事業内容や公共交通等の課題を解決するための必要施策となるかどうかを議論し、必要であればそういったものをこの計画の中に盛り込んでいくという予定である。

F 委員 : まだイメージはないと理解してよいか。

事務局 : はい。現在、ソフト事業、ハード事業を含めてどういった事業を具体的に盛り込むかどうかのイメージはない。

B 委員 : 議論を聞いていて思うのだが、非常に項目が多岐にわたり、玉虫色のような進め方の感じを受ける。私たちは本当に旧郡部で生活しており、かつ連合会長等様々な役割を持っているが、地域では高齢化や人口減少が日々進行しており、そういう中で本当に1つでも2つでもいい、早く結論を出して取り組んでほしいというのが本心。でないと、こんなに項目が多岐にわたって、しかもどれもこれも整合性を取って結論を出すということになると、結局最後何なのかとわからなくなってくると思う。それからすると、現場を預かっている者の意見をよく尊重してもらい、1つでも2つでも取り組めるところは取り組んでもらわないと、もう現地がもたないという感じがある。

G 委員 : 六連島、蓋井島の2つの島に対して渡船運営をしており、将来にわたってこの路線を維持していくためには「人口減少」これは致し方ない。それを踏まえてこの路線を維持していくためにはどうあるべきか、どうしていくべきか、ということを検討した。その結果、外部の方々に利用してもらえないという結論に至った。外部の方を無視して路線運営ということになれば、将来じり貧になるという

ことで、六連島については釣り客をターゲットに朝早い時間に運航開始を始めた。実際、利用者は増加した。維持管理していく上では非常良いことである。ところが1日の便数を増やせばいいが、そういうわけにはいかず、昼間の1本を抜いたりした結果、利用者のニーズに合わなかった。いかに外部からの利用者を増やすかというところにもう少し視点を置き、観光客をターゲットに現地の様々な観光施設と絡めて公共施設の利用、運営、運行を考え、少し入り口を広げて検討されたいのではないかと思う。

会長 : 今、まさに言ってもらったように、ここまできれいにまとまっていますが、ここにより重点を置いて、こういった部分に論点を置いてほしいといったような、先ほどから出ている人口減少であったり、今、意見のあった外部の利用者、観光客であったりという、こういった部分をより重点を置いてほしいとか追加してほしいといった部分があれば、これから原案を作成していく中で案が作りやすいので、ほかにもそういった意見があったらお願いします。

副会長 : 28ページの「豊浦町ではNPOが病院を巡回する豊浦福祉号を無料で運行しており、行政以外の団体へのアプローチも必要だ」とあるが、これは現実にはどうなのか。これを本当にアプローチしているのか。

事務局 : 豊浦で無料福祉号ということで、無料送迎バスを運行する取り組みが行われている。行政以外の団体で取り組まれており、無料の運行に関しては運輸支局等ときちんとした手続きを取り、タクシー事業者などの交通事業者への影響等を確認した上でないとなかなか進めづらいついて考えている。

E委員 : この基本方針は良いが、これを意図とするものというのは何なのか。例えば「各交通モードのサービス向上を図る」という課題に対して、サービスという単語は何を意味しているのか。JRに対して頑張れよと言っているのか、サンデンもっとバスを走らせよと言っているのか等の具体的なイメージがあると分かりやすい。我々も1つの企業として様々な取り組みをやっているが、突然に来年やってくれと言われてもそうはいかないところもある。我々としても交流人口を増やすという対応を今、一生懸命頑張っているため、我々の責務でできるところや工夫できるところがあると思う。その中で、この基本方針に沿って何ができるか、何を準備していけばいいかというのが現時点でイメージ湧かないので、施策を検討・整理する過程の中で、これをする必要がある等があれば非常に助かる。



- 事務局 : これから今回の基本方針に沿った計画を作っていく。その後に具体的な取り組み等について検討するため、現時点でお示しすることはできない。
- E 委員 : すごい勢いで世の中は動いているため、対策が出たころには違うことをやっている可能性がある。幅広く指摘してもらいたい。
- H 委員 : この公共交通整備検討委員会というのは地域公共交通網形成計画を策定する委員会なのか。
- 事務局 : 第1回の委員会でも説明をしたが、地域公共交通網形成計画というのは、交通計画として下関市総合交通戦略を策定したいということで説明をしているが、これと同じものと思ってもらって結構である。下関市総合交通戦略というものは都市局の所管の計画で、地域公共交通網形成計画は運輸局の所管の計画であり、事務局としては両方の計画を立てて、両局の国の支援を受けたいと考えている。
- 会長 : 今日は色々な意見をもらったが、きれいな単語でまとめると、見た目はよいが、中身がぼやけるということになってくる部分がある。そういう意味でもより細かい単語の中身を精査して計画を立てていくということがこれから恐らく必要になってくるかと思う。私も事務局とも連携を取り、そういった部分を確認していきたいと思う。また、委員の皆様の中で何か意見があれば、事務局に意見を寄せてもらいたい。現時点でこういう課題整理を行ったということにさせてもらおう。

#### (6) 今後の委員会の進め方

- ・事務局が今後の委員会の進め方について説明

会長 : 次回は7月3日ということで非常に間があき、さらに年度を跨ぐという形になるため、担当が変わっていることもあるかと思う。事務局から5月に1度、開催予定の文書を送るようお願いしておきたい。その際に、万が一、委員の都合が悪いということになればまた日程を調整させてもらうようにしたいと思う。現時点では7月3日を案として次回の予定とさせてもらおう。

- ・事務局が第4回委員会、議事録の公表予定等の今後の流れを説明

#### 4 閉会

以上